

仙台防災未来フォーラム



啓発へ拠点組織を みやぎ円卓会議がアピール

仙台国際センター(仙台市青葉区)を会場に12日にあった仙台防災未来フォーラム2017で、産学官民と報道機関の連携組織「みやぎ防災・減災円卓会議」は教訓の伝承と防災啓発をテーマにセッションを開いた。東日本大震災の教訓を踏まえ、防災啓発を担う拠点組織が必要との認識を確認。「宮城県や仙台市、被災自治体を中心に関係機関、団体が足並みをそろえ、組織設立に向けて行動を起こすことを求める」とのアピールを採択した。

(1面に関連記事)

アピールは、阪神大震災と新潟県中越地震の各被災地で、自治体や研究機関を核とした拠点組織が活動していること言及。「東日本大震災の被災地でも産学官民、報道機関などの参画を前提にした拠点組織をつくる必要がある」と訴えた。

円卓会議会員や市民ら約70人が参加した。拠点組織の中越防災安全推進機構(新潟県長岡市)設立に関わった山口寿道・山の暮らし再生機構(同)理事長が経緯を紹介。設立後に防災教育や防災の担い手育成が震災伝承と防災啓発の推進に向けて話し合ったテーマセッション

進んだと報告した。拠点組織づくりを目指す円卓会議に「東北の明日のためにまとまれば強い組織になる」とエールを送った。

セッションでは会員報告もあり、国際協力機構(JICA)東北支部の村瀬達哉支部長、市民団体「わしん倶楽部」の田中勢子代表、エフエム仙台的防災・減災プロジェクト「板橋恵子」の3人が登壇した。

円卓会議は、国連防災世界会議の仙台開催を機に2015年4月に発足した。宮城県内の大学やNPO、町内会、経済団体、報道機関など約70団体、約130人で構成し、毎月例会を開いている。

「記憶の伝承重要」 次世代の役割でトークイベント

いのちと
地域を
守る



トークイベントで、次世代が果たすべき役割の大切さを訴えた安田さん(右)の話に聞き入る参加者

仙台市青葉区の仙台国際センターで12日に開かれた仙台防災未来フォーラム2017の一環として、震災体験を若い世代に語り継ぎ、教訓を今後の防災につなげることをテーマに、トークイベント「次世代が語る次世代と語る」311震災伝承と防災」が行われた。「次世代」が果たすべき役割や世代を超えた伝承

の重要性について議論が交わされ、約120人が聞き入った。

義母が津波の犠牲になった陸前高田市の復興を記録し続けるフォトジャーナリスト安田菜津紀さん(29)が講演。「今はまだ摩擦や葛藤があるかもしれないが、記録や記憶を次世代に手渡していくことは時がたつほど重要になっていく」と伝

イベントは、河北新報社などが4月に始める年15回の震災伝承講座「311伝承」のキックオフも兼ねており、受講予定の学生らも聞き入って、震災に向き合う決意を新たにしていた。

承の重要性を訴えた。

震災の語り部として活動する地元大学生、高校生ら3人と安田さんの討論もあった。東松島市野蒜の自宅で祖父を津波で失った石巻西高3年の志野のかさん(18)は「私が体験を話すことで、次に来る災害から一人でも多くの命を救いたい」と決意を述べた。

石巻市大川小の教員だった父親を亡くした宮城教育大3年佐々木奏太さん(21)は「立場や境遇を超えて震災を伝えることが、犠牲を無にしないことにつながる」と胸中を明かした。

河北新報社が主催し、日本損害保険協会(東京)が特別協賛した。河北新報の震災復興企画「今できることプロジェクト」とも連携し、協賛する尚絅学院大のボランティア団体「TAS KI(たすき)」が活動を発表した。